

建設地	： 岡山県岡山市	竣工	： 平成 31 年 2 月	敷地面積	： 415.53 m ²
地域区分	： 6 地域	用途	： 専用住宅	延床面積	： 93.14 m ²
設計者	： 一級建築士事務所（有）バジャン	構造・階数	： 木造軸組・地上 1 階	建築面積	： 93.14 m ²

■提案の概要

- 地方都市郊外の住宅地に建つ住宅で、周囲に溶け込む平屋建てとし、地域に今でも用いられている焼杉材を使用することによって、地域景観にも配慮している。地域の風向特性（南北の卓越風）にも配慮し、開口部と内部建具（襖）により、通風を促進するとともに、掃き出し窓や天窓によって、採光や快適性の向上を図っている。夏の高温に対しては、多面的な対策によって、結露防止や耐久性向上を図っている。また、イグサの産地であることから、稲藁畳床の採用を通じた生産・製造技術の伝承を意図している他、来客や近隣の訪問に対する南入りの大きな玄関、濡れ縁、掃き出し窓などの取り組みを採用している。
- 地域の気候風土に応じた木造建築の要素技術については、小屋組現しかつ野地現し、土塗壁、開放的な床下（石場建て）、地場で製作される木製建具、無双窓、竿縁天井、土間（三和土）等、幅広く採用している。
- 現行の省エネ基準では評価が難しい環境負荷低減に寄与する対策については、南北の続き間（さらにLDKとも連続し、空間の可変性も有する）、深い軒庇、多層構成の建具、床板張り既存樹木を活かした生垣の新設、地域産材の使用、地域の職人・大工の登用等、全般にわたって幅広く対策を講じており、デザインとして地域の気候風土を読み込んだ提案となっていると考えられる。



地域の景観に溶け込むよう外壁に焼杉を用いた外観




床の間・床柱・網代の障子のある座敷



お客様が立ち寄れる広い玄関と土間

■地域の気候風土への適応・環境負荷低減対策

凡例：気候風土への適応 

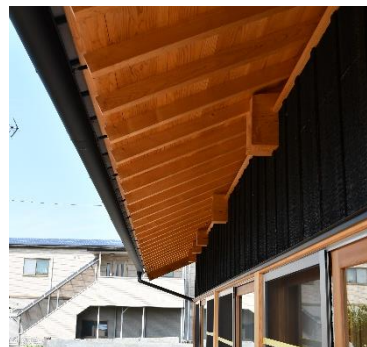
環境負荷低減対策 

□続き間

南北2室が和室の続き間。
さらにLDK含め3室が続き間。



続き間



深い軒・庇

□深い軒・庇

軒の出 1,200mm

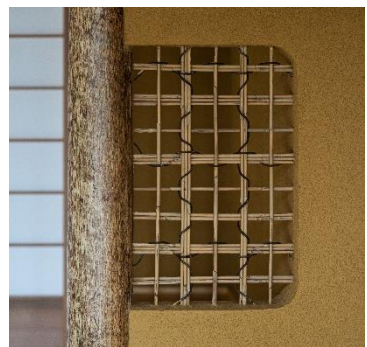


□多層構成の建具

木製ガラス戸、障子、網戸の組み合わせ
となっている。



多層構成の建具



土塗壁・下地窓

□土塗壁・下地窓

厚さ 60mm
竹摺下地、竹小舞下地が使われている。



□開放的な床下（石場建て）

通気・乾燥が見込める開放的な床下工法
としている。



石場建て



三和土

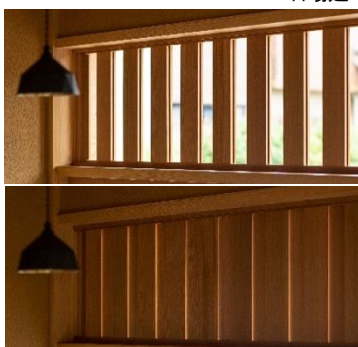
□三和土

玄関に三和土の土間空間を設けている。



□無双窓

玄関に無双窓が設けられている。



無双窓



既存樹木と生垣

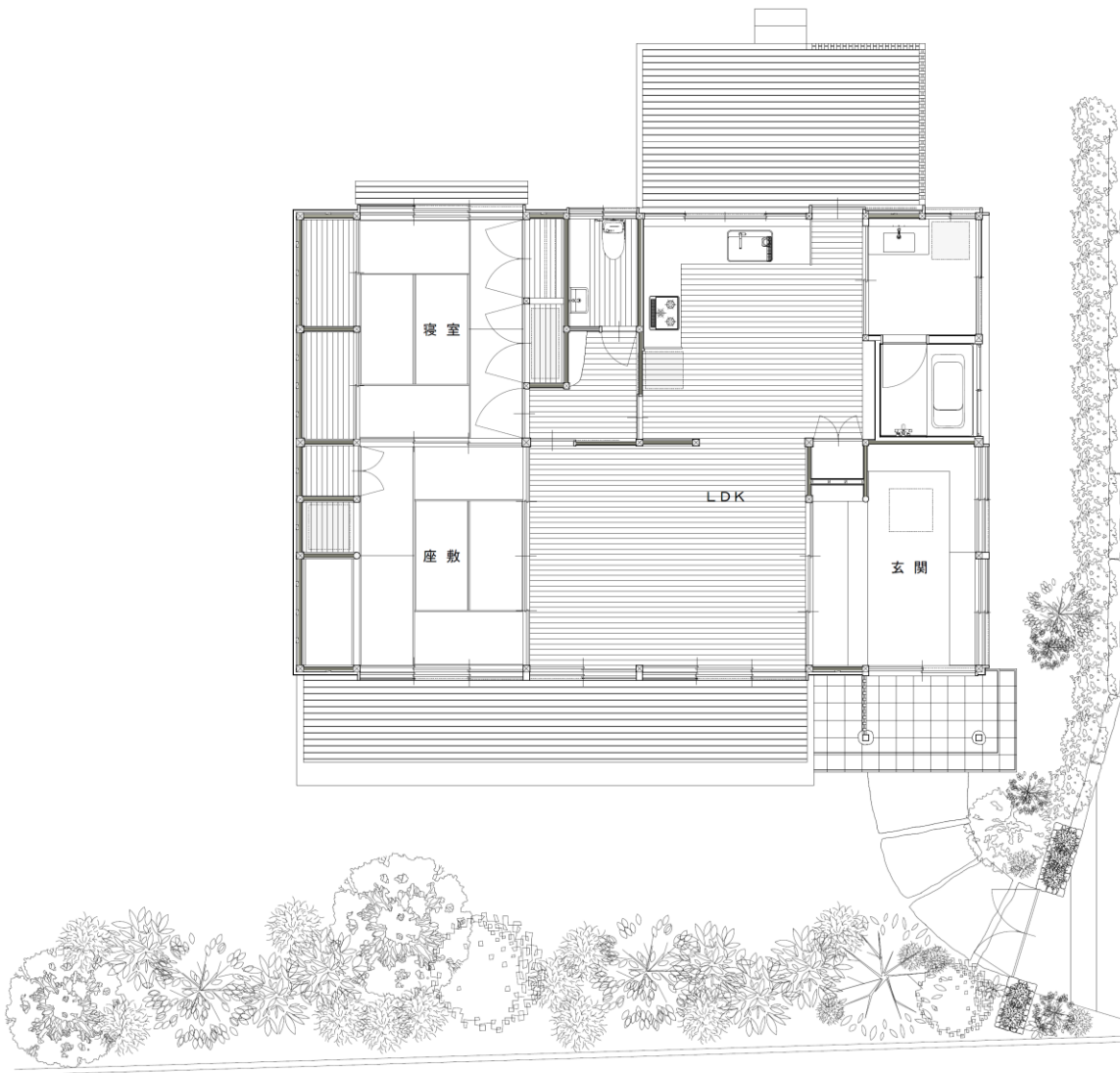
□建物周囲の環境配慮

既存樹木を生かし、生垣を新たに
設けている。

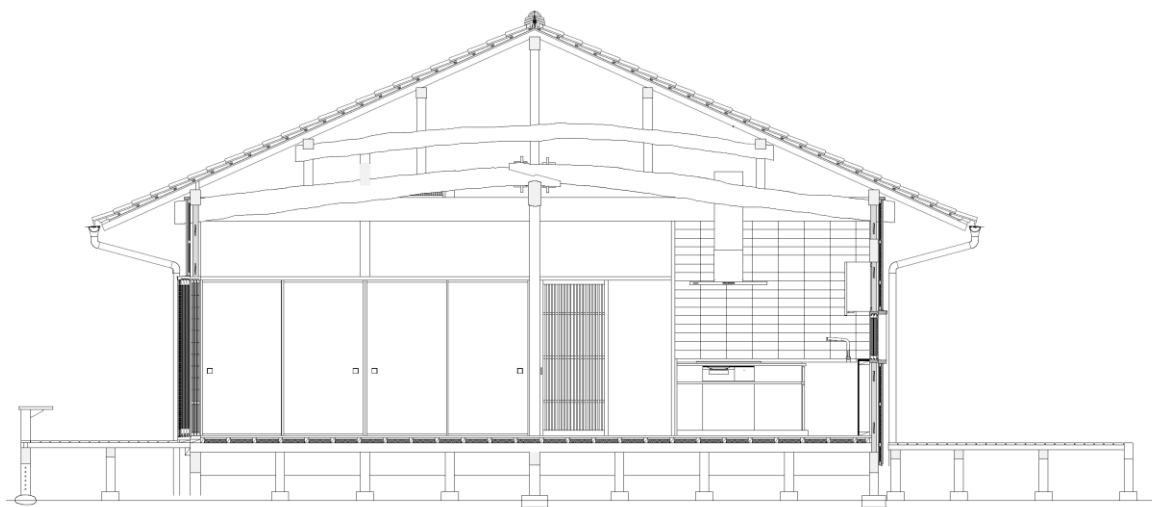


■エネルギー性能（採択時）

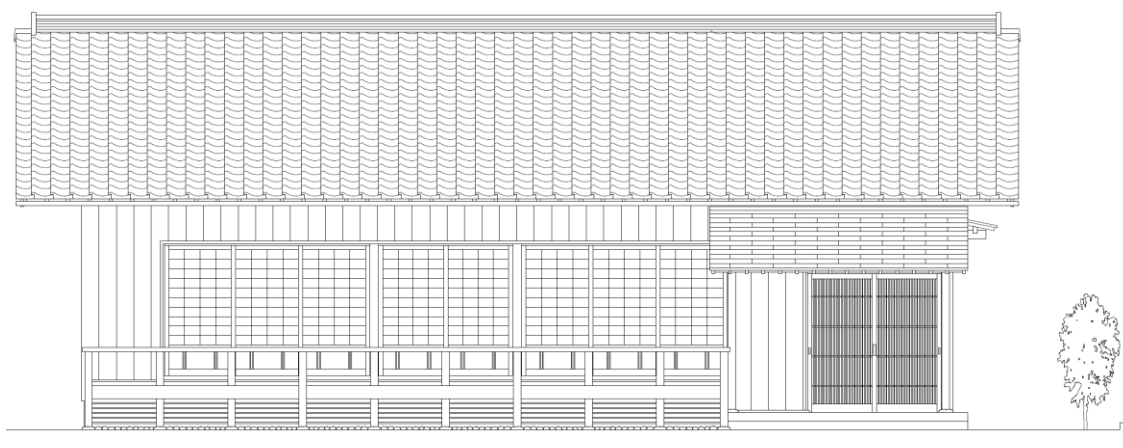
項目	基準値	設計値
評価方法	Webプログラム 気候風土適応住宅版による評価	
地域区分	6地域（岡山県岡山市）	
外皮平均熱貫流率（ U_A 値）	0.87以下	2.04 W/($m^2 \cdot K$)
一次エネルギー消費量	122.4以下	115.8 GJ/(戸・年)
一次エネルギー消費性能（BEI）	1.0以下	0.94



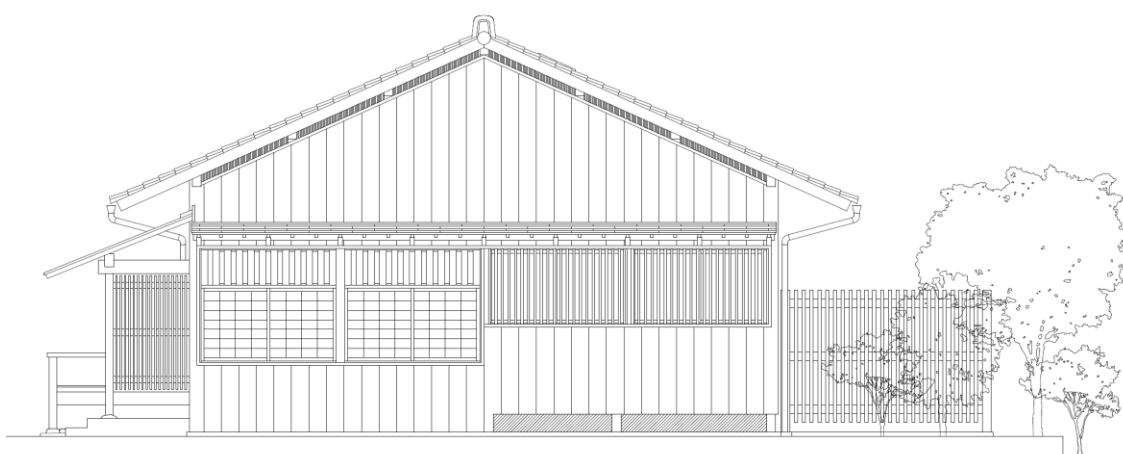
平面図



矩計図



南側立面図



東側立面図

■お施主様の声

親が建てた家を建て替える際、100年もつ家にするためにいろいろ調べた結果、昔からの建て方である伝統工法にたどり着きました。そこで岡山でこの工法で家づくりをしているバジャンさんに依頼しました。

敷地周辺は湿気が多く、白蟻が多く発生するおそれがあるため、石場建てにさせていただきました。

仏間と横になるためのスペースとして和室を希望しました。

襖や障子は張り替えができるのでとても良い建具だと思っています。またカーテンのない生活にも自然に慣れました。

木の香り、健康的で開放的な吹抜け、お客様が立ち寄れる土間、身長に合わせて設計されたキッチン、引戸で仕切られ無駄なスペースがない間取り等が気に入っています。風通しがいいので、無双窓や大開口の開け閉めに配慮しています。

■設計者の声

独立後、古い建物の改修に携わった際、100年を超える部分がほとんど傷んでいないことに驚いた経験に基づき、柱や梁といった腐朽や蟻害等に対するメンテナンスが必要な構造部分は露出し、石場建てで家づくりを行うようになりました。お施主様とは時間をかけて話し合いを行い、生活パターンや客室の要望、収納するもの、居住人数等を書類に書いていただき、設計のベースとしています。

岡山は北側が山、南側が海なので、風通しを考慮し、基本的には南北を開け、西側は閉じるようにしています。東側は朝日が気持ちいいので開けるようにしています。

リビングの漆喰壁は、真っ白な壁から受ける緊張感を和らげるために、漆喰に地元の土を混ぜて少し柔らかいトーンの色合いとしました。